

情報連絡員報告・4月分

全産業計で調査項目の9項目中、7項目のDIが好転

～売上高、雇用人員等のDIがプラスに～

<東京都中央会>

4月の情報連絡員報告によると、全産業計で前月と比べ、調査項目の9項目中、7項目のDI(前年同月比)が好転した。なかでも売上高、販売価格、設備操業度(製造業のみ)、雇用人員のDIはプラスの値となった。

特記事項からは製造業より、仕事量の増加が原油高騰等によるコスト増や単価引き下げ要求で収益面に反映されない、非製造業では従業員を募集したが、集まらないという報告があった。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

特記事項欄より

「出版・印刷」

- ・印刷用紙の値上げについて、大手2社が10～15%の中で受け入れたとの報道を受け、今後、中小企業に対しての値上げ要請が本格化されることが予想される。

「鉄鋼・金属」

- ・自動車、造船、電機等大企業の業績回復の波及効果で受注が増加しているが、原油・原材料価格の高騰と単価引き下げ要請により、価格是正ができず、採算性は悪化している。

「一般機器」

- ・新年度になり、景気も良くなっているが、まだ収益面には反映されていない。

仕事量が増加したとの声も聞くが、印刷単価が低下しているためと思われる。

「電気機器」

- ・バラツキはあるが、昨年に比べると工場の操業度は上っている。ただ、単価は抑え気味から低下も見られ、売上と採算には反映できていない。銅製品の値上りが急で、素材の値上りが採算をさらに圧迫していくかが心配。

「卸売業」

- ・売上は微増、仕入れ価格は値上げされても、販売価格に転嫁が難しい現状で、収益が圧迫されている。従業員が集まらないことと、石油の値上げが心配される。

- ・仕入材（外材）の単価の上昇を売値に転嫁できていない。建築確認が強度偽装事件の影響で、簡単にされなくなっている。

「小売業」

- ・4月の成績は全体的に微減というところ。特に売れ筋があるわけではなく、販売価格の低下が目立ち、古書業界はデフレ脱却の兆しがまだ見えない。
- ・組合員の店舗では、ハローワークや就職情報誌で募集しても、従業員が集まらず、深刻な問題となっている。

「サービス業」

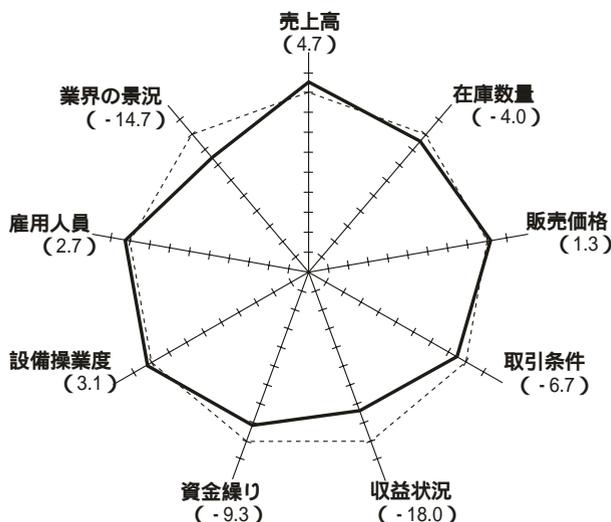
- ・4月は寒暖の差が大きく、天候が安定しなかったことから、冬物衣料のクリーニング需要が出遅れた感がある。組合員の多くが今後の冬物衣料のクリー

ニング需要増を期待しているが、原油高騰による経営の圧迫が大きな不安となっている。

<要望事項欄より>

- * 汚染土壌対策に困窮する企業に支援策を要望する。 [鉄鋼・金属]
- * 6月からの駐車違反の取り締まりが強化されるが、荷下ろしや配達中等、やむをえず駐車する場合の規制緩和を要望する。
- * 大型店舗（スーパーマーケット）の出店規制をしてほしいという組合員の意見が多いので、「まちづくり」という視点からの対応をお願いする。 [小売業]
- * 我が国のエネルギーの将来はどうか。国家百年の計を強く希望する。 [サービス業]

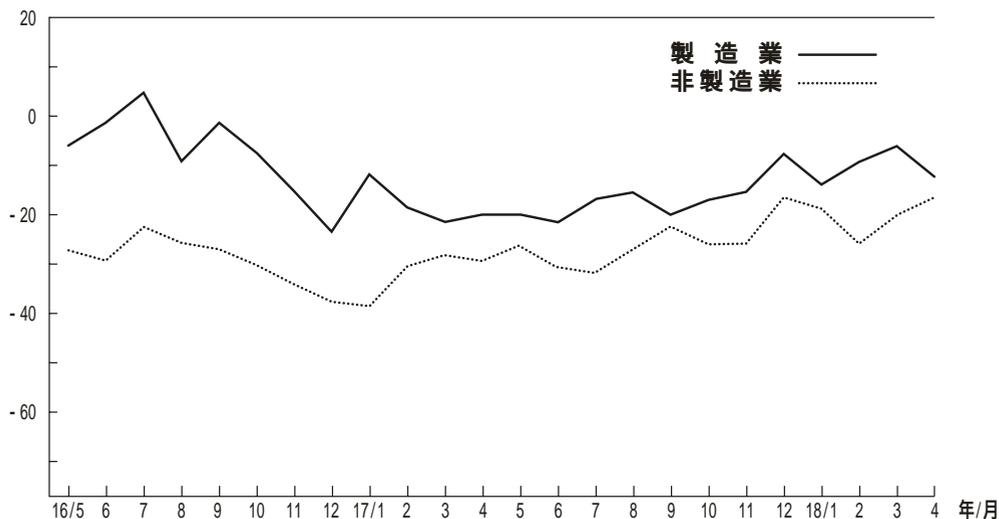
4月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）



（注）点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

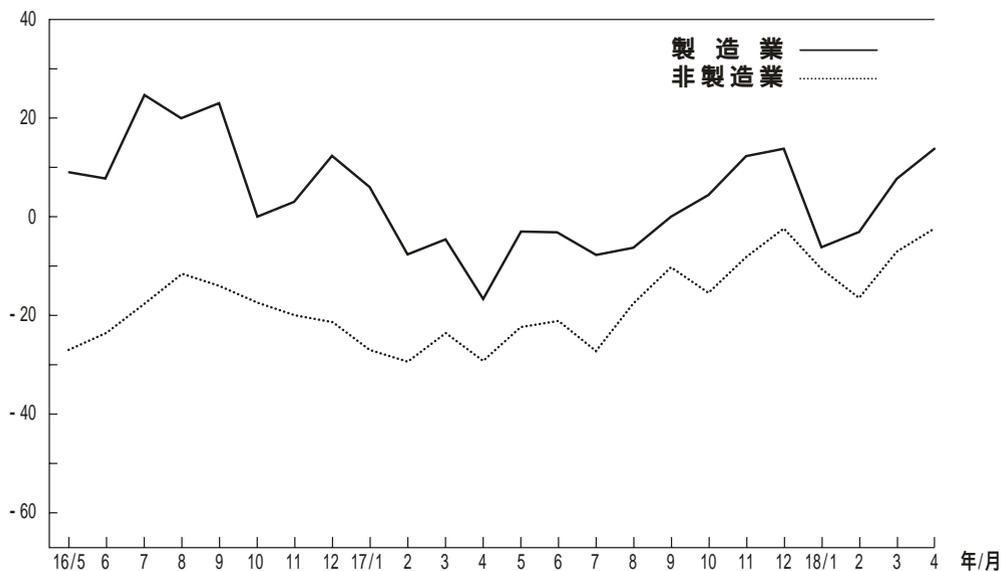
業界の景況DIの変化（H16.5～H18.4）

（前年同月比）



売上高DIの変化（H16.5～H18.4）

（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。